

シリーズ 医療経営を探る②

報酬の魅力

医療法人アスカ会菅波内科医院院長

菅波 茂

やっかいな“社会欲”

よく医学生が卒業後の進路の相談に来ます。——先端医療を駆使して難病に挑戦してみたい。生死をさまよっている患者を劇的に救いたい。生化学の分野でオリジナリティのある仕事してみたい。国境を越えた医療に従事したい。国際機関に勤めたい——。

私は学生の言うことを、言葉通りに受け止めません。学生のいうことをそのまま受け止めることは危険がいっぱいだからです。

なぜなら、学生が抱く夢と持っている欲とは別物なのですから。

人間にとっての生存欲は、食ること、寝ること、性の営みをすることです。これに加えて“社会欲”という厄介なものがあります。社会欲というのは物欲、名誉欲、権力欲の3欲です。

この社会欲の潜在意識を分析せず、進路相談を受けると失敗します。

3つの社会欲

まず、この3つの社会欲について述べてみます。世の中の職業は、この3つのいずれかに分類されます。

“名誉”は「先生」と呼ばれる職業にあります。医師、弁護士、公認会計士、教師、政治家、新聞記者などがこれにあたります。新聞記者は先生と呼ばれていないではないかと思われるかもしれませんが、しかし新聞記者の場合には、あるトピックに精通して、講演会やセミナーなどによばれるような大家になったときの最高の勲章が、「先生」と呼ばれることなのです。

次に、なぜ政治家が名誉職なのかということです。政治家こそ、この世の権力を握っているから、行政絡みの許可をパスさせたいときに、政治家に頭を下げにいく人が後を断たないと錯覚しがちです。

よく考えてください。みんなに選ばれて公に認められる事実こそが、

“名誉”の世界を意味しています。

“物”（金銭）は、ビジネスの世界についてまわります。生存に関わる、唯物論のダイナミックな世界です。目に見えるだけに苛酷な競争があります。世の中の安定は、このビジネスにかかっています。職無ければ食えず、貧すれば鈍す——。貧すれば争い合う発展途上国を見れば一目瞭然です。

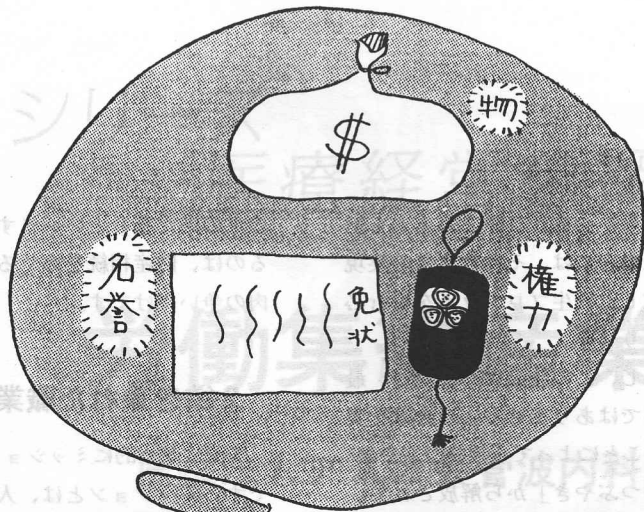
経世済民。すなわち経済のことで。す。 “物”（金銭）の世界を軽視すれば、世の乱れること、百鬼夜行のごとしです。

最後に“権力”です。初めに権力と権限を明確に区別しておきます。

権限とは、物事を積極的にすすめていける力のことです。それが国によって認められていれば、国家ライセンスといいます。

権限の多くは明文化されています。会社や社会における立場は、権限の内容と一致しています。

しかし、権力については明文化さ



れていません。なぜなのでしょう。不思議なことです。

石原慎太郎と盛田昭夫の共著『「NO」と言える日本』が、アメリカ人を激怒させたことを覚えておられると思います。なぜ、アメリカ人は激怒したのでしょうか。

それは「NO」が権力そのものだからです。権力の大きさは、「NO」と言うことによって引き起こされる影響の大きさに比例します。したがって、「NO」のないところに権力は存在しないのです。

日本国首相の最高権力は「議会の否定」、すなわち「議会の解散権」です。首相のこの最高権力行使を反対政治勢力によって防止された例が、過去の政治上でたびたびみられています。

医師の権限とは治療行為です。医師の最高権力とは治療の拒否ではなく、死亡診断書を書くことの拒否です。死亡診断書がなければ葬式が施

行できず、世の中に死体が溢れ、疫病が大流行します。

輸送機関の組合がストに入った時に、運転拒否をします。これは、権力の行使が乗客に向かって行われています。乗車運賃の受け取りを拒否すれば、権力の行使は経営者に向かっています。同じように、診療拒否は患者さんに対する、また、死亡診断書を書くことの拒否は国家に対する権力行使になります。

権力の大きさからいうと、日本での真の権力保持者は官僚組織です。なぜなら、法律としての許認可権を無限に作ることが出来ます。その弊害を少なくするために、官僚組織は3年単位で職場間ローテーションが行われています。

社会欲の3欲分立論

さて次に社会欲の3欲分立論について述べます。

日本の社会的安定は、世界的に有名です。中流階級90パーセント説、所得格差僅差説、学歴社会による固定的社会階級打破説など、それを裏付ける説はいろいろあります。

しかし、3欲分立が完全に成立している国は日本だけです。先生と呼ばれる職業には名誉はありますが、権力と物はそれほどありません。ビジネスの世界での最高地位にある社長には、物がありますが、名誉と権力はありません。官僚には権力はありますが、名誉と物はありません。

3欲完全分立は心理的安定をもたらします。共産主義国家では、共産党幹部が権力と名誉と物を独占しています。発展途上国では、最大民族が3欲を独占しています。それらの独占が招く社会的・心理不安定さが紛争を頻発させます。

社会欲の3欲分立論は、世の中の現象解説にもなかなか有効です。

的確なプログラムが必要

医学生の卒業後の進路相談に戻りましょう。

それでは医学生の社会欲はどうやって見極めたらよいのでしょうか。

これには、「親のつぶやき・一族のつぶやき」という時系列を加える必要があります。医学生個人の問題として、現時点だけをとらえて指導すると、将来に禍根を残す可能性があります。親の職業、一族の栄枯盛衰などが、大きく影響していることは間違いありません。「親のつぶやき・一族のつぶやき」は、しっかりと学生の潜在意識に植え込まれています。

医学部の教授で、医療機器の購入時に賄賂をもらい、汚職の罪で逮捕される人がいます。この医師は、本来、物欲の世界に行くべきところを、間違って名誉の世界に突入したので、途中から進むべき方向がおかしくなってしまったのです。

名誉の世界では、論文の質と数には身も心も捧げますが、あまり金銭で身を売るようなことはしません。興味のないことですから。

権力欲で行政関係に進んだ医師も、あまりお金で失敗することはありません。権限の施行で世の中の保健・医療水準の向上を実現することに無上の快楽を感じているからです。

では、われわれ開業医は3つの欲のうちの、どこに属しているのでしょうか。開業医というのは、どちらかというと物欲の世界に属しています。しかし、ひたすら地域住民のニーズに応えることによって、報われているのです。へたに夜間診療拒否や往診拒否をしていると、医院の経営的破綻という、地獄への片道切符が送られてきます。

いちばん中途半端なのが勤務医です。宮仕えの身で権限はいまひとつ、名誉もいまひとつ。権力行使も限られた範囲、給料もまた、いまひとつです。しかしその医師に、名誉欲、物欲、権力欲があまりない場合は、その立場を楽しむのもいいと思います。

医学生が進路相談にアドバイスをする場合、結論的にいえば、「親のつぶやき・一族のつぶやき」もなく、本人の現時点での社会欲も見だせない場合は、純粋に本人の夢の実現に向けた助言が必要です。反対に、い

ずれかの社会欲が診断され本人も納得した場合には、その社会欲の実現を考慮した人生プログラムを組む必要があります。

しかし、この社会欲の実現が、最終目標ではありません。社会欲を実現することによって「親のつぶやき・一族のつぶやき」から解放されて、自己実現の第一歩を踏みだすのです。誤解のないようにしてください。

夢の実現へ

では、その自己実現はいかにしてなされるのでしょうか。

社会欲が達成されたとき、その医師は、「名誉」、「物」（金銭）、「権力」（権限）を持っている状態になっています。この3つは、いずれも社会的に認められるほどの影響力を持っています。この時点から、本人自らの夢の実現が始まるのです。そうです。医学生の時抱いていた、純粋な夢の実現です。

この段階にたどりつくまで、世の中には多くの隘路や誘惑が待ち受けています。逆に、志さえ固く持っていれば、世の中には、人との素晴らしい出会いがたくさんあるということに気がきます。

自己実現はその人の社会欲を実現する過程の中で、もうすでに始まっているのです。

社会欲と夢とは別々のものではありません。夢は個人的なものです。社会欲は、その個人の存在する社会にその存在を認められることです。前者は主観的なもの、後者は客観的なものであり、同根異花です。

夢のない社会欲だけの実現を「こ

の世のあだ花」といいます。後に残るのは、財産相続をめぐる身内の骨肉の争いだけです。

2 欲を兼ねた職業・医師

医療は基本的にミッション（使命）です。ミッションとは、人間らしく生きるために必要な、教育、医療、そして宗教をいいます。ミッションとしての職に従事する人には、社会的な名誉というものが与えられています。

日本では、医師の給料は比較的高く設定されています。医師であるがゆえに、権力を除いた名誉と物（金銭）が基本的に与えられています。

このように2欲を持ち合わせた職は、他には見当たりません。これを忘れてはいけません。

おわりに

社会欲が達成されたとき、人は落ちつきます。安定してきます。ゆくりと余裕を持って、社会を見渡せるようになります。

修身齐家治国平天下。内から外へ。幸せな人だけが他人の幸せを喜べる——。これらは東洋思想のエッセンスです。

医療経営の報酬の魅力。衣食住および物欲足りて、若い医師の自己実現への助言を知る。

